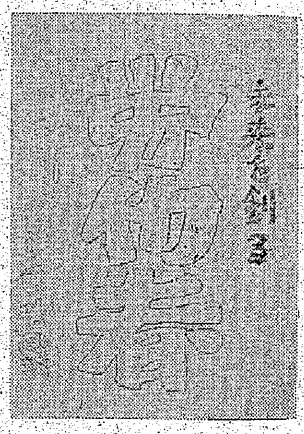
火花

三池の伝統を受けつぎ
解放めざし闘おう！
三池の闘い公演報告書から

宮崎

▼…四月五日宮崎市民会館で、合唱詩劇〝みいけの闘い〟を公演しましたが、そのときの成功は主として、公演を組織するために自分を忘れてがんばってくれた、青年労仂者のみなさんによるものでした。こんど、そのときの経験を総括した〝報告集〟が送られてきました。收められている十一篇の文は、限りなく私たちをはげましてくれます。とりあえずその中から三篇だけ紹介致します。



報告文集の表紙

雑草のごとく
全逓宮崎家族会長　岩切ミネヨ

去る四月五日午後六時より市民会館にて、三池の方々の三池の闘いをテーマにした劇と合唱を観賞しました。すばらしい熱演にただ感激して、一口にこうだったと言葉につくせない程でした。

生活のため生きて行くのに一生懸命仂いても、むくいのないあの人たち。それに対してひるまずに立ち向って行く姿に、心打たれました。

爆発一瞬の情景について涙が……一酸化炭素中毒にあった主人のいらだたしく、もだえる様子を何とかしてやりたいと思う妻の、いたわりの言葉さえわからない有様もし私がそんなめに会ったらどうしたらよいか。想像するだにおそろしくなります。

また、主婦たちのすわり込みに対して、自分がその立場に遭遇したら、あんな元気がでるだろうか。あんな勇気がわくだろうか。

お互いに助け合いながら、幸福な生活にあやかりたいと思います。

歌一首

ふまれても尚芽のいずる雑草よ
我にもほしき意志の強さを

三池の歌ごえ
西野間民夫

ほの暗いステージに、三池の仲間たちのなつかしいホッパースタイルがシルエットのように浮び上がった瞬間、唐突にSさんのことを思いだした。六年程前、私は県労評代表団に加わって闘争收拾後の三池を訪れたとき、緑ケ丘のSさんのお宅に泊めてもらった。

緑ケ丘一帯の風景は闘争中と何ひとつ変っていなかったが、人々の中には差別の嵐が吹きまいていた。

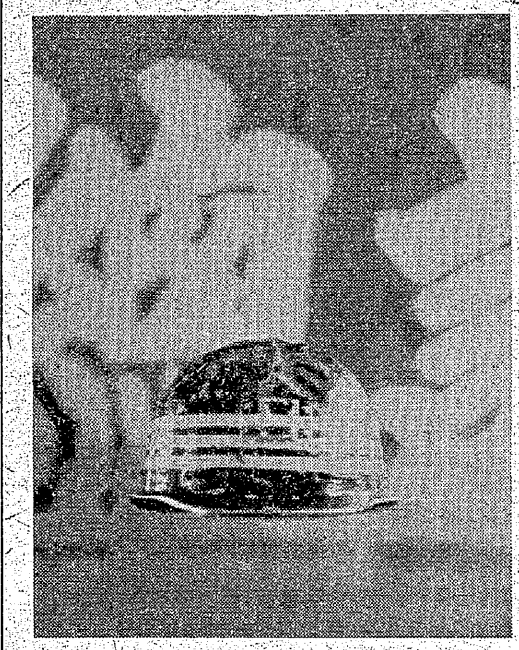
Sさんが見せてくれた給料明細書の数字は、驚くほど少なかった。「たったこれだけでは、親子四人食べていけません。家内も内転してやっています。新労に入れば二万円位あがることは知っていますが……。いつかは、わしらが勝つと思っているんです」。

笑いながら静かに話すSさんの顔に、私は「不屈の三池魂」を見る思いだった……。

いま、ステージに立っている人たちは、Sさんにくらべるとかなり若い。おそらく、あのホッパー攻防の闘いを身をもって経験したことのない人たちがまきれもなく闘う三池の伝統をがっちりと受けついでいるのだ。文字通り、闘いの中からうまれ、うたいつがれてきた歌声が次々にくりひろげられるのを聞きながら、この感動をその日だけのものにせず、一人ひとりの血肉として受けつぎひろげていくことが、三池の闘いの勝利に結びつき、労仂者階級の解放につながるものだと、自分にいいきかせたことだった。

給料日のうた
歌謡曲ケメコのふしで

セリフ
「それはことしの×月でした。
給料を手にした青年がいいました。あア今月も赤字だ……」
(1)
ラーメンたべたべ待っていた
きょうはいよいよ給料日
借金払ったそのあとで
大きな声でいいました
ヒクイ　ヒクイ
オレは給料が低いんだ
(2)
定期一月三千円
タバコひとつが八十円
六千円のこの金で
ひと月どうしてくらそうか
(以下くり返し)
(3)
オレは給料が低いんだ
オレは楽しい夢を見た
ステレオ前にカンパイだ
こんな生活できるよう
みんなといっしょにガンバロー
(以下くり返し)
＝KNA・全労連＝



「この困難のときこそ、自分たちが三池闘争を終つて坑内に下がるとき、はじめてはめた三本線のもつ意義をもう一度かみしめて、あくまでCO患者の仲間を守り闘つてゆこう」……2日の中央委員会における一中央委員の発言から

豆ニュース
【KNA】

天皇を元首にせよ、と増田防衛庁長官。つぎは天皇に捧げ銃――

× × ×

東京国税局、お前もか。底なしの日通汚職。

× ×

「大割強が生活に満足」閣議報告。こんな調査を基礎に政治をするからまちがってくる。

× × ×

コロシ、大小にかかわらず引き受けます――アメリカ屋。ベトナムでたりず、〝株主〟まで血祭。

× ×

フランス総選挙近づく。実現するかアデュー・ドゴール。こっちもグッドバイ佐藤とゆくぜ、兄弟

CO守る会を組織しよう！
〝三池の闘い〟上演
実行委事務局長　戸高　武俊

三池労組は、爆発事故発生以来政府、資本の攻撃の実態をふりかえってみるとき、治っていない患者をあくまで強制就労させて、将来はなし崩しに解雇するというきびしい情勢分析にたって、長期抵抗路線をふまえた、たたかいを堅持してきたが、十分理解されないまま、炭労、総評としては、昨年十一月以後の経過措置として医療費、休業費の政府負担の決算を迫まられていることと関連して事態を收拾する方向がうちだされ、それをうけてたつ方針にたたされた。

同時に三井鉱山は、十一月四日だされた七百三十八名のうち五名のみ継続療養を認める、二審三審の結論にしたがって、全員をただちに就労させると通告してきた。

三池労組ではただちに、いまだ政府の行政的命令や、現職復帰後における治療、認定については、総評、炭労と労仂省間で未決定であるということを理由に直接、会社の責任者である三川鉱人事係にCO家族の人たちが通告返上と抗議を行なった。

抗議は十二月四日から、二十四時間、無期限の座り込みであり、たたかいのもりあがりに恐れる会社側は、鉄鎖をさくに張りめぐらして対抗した。

座り込みをつづける三川鉱事務所では六十二名の主婦たちが転制と第二組合員によって、窓といわず、外柵までが厳重にとざされ、いわば、かん禁状態にさらされている。食事、飲料水を外から搬入するのを排除するなど食糧攻めで座り込みを弾圧してきている。

CO闘争を鋭い反合理化闘争としてとらえ、このたたかいの積極性を評価じながら階級的運動として発展させるためには、情勢のきびしさの中にある、労仂者の連帯性をひきだしてたたかうという方向を堅持する。

そのために「三池のCO患者、遺族を守る会」を組織化するという方向が、四年余にわたってたたかってきたCO闘争の発展として〝合理化から労仂者の生命と健康を守る〟という極めて階級的なたたかいを、全国的な労仂運動として、高揚させるものとして、二月十二日の総評の拡大幹事会において提案され、三月一日を期して具体的活動を展開することになった。

われわれはこの方向に基いて、企業の集中、合併による産業再編成のもとで、合理化とたたかう全国の労仂者の抵抗と、物価値上げベトナム戦争への積極的加担など政治的反動に反対する地域住民との提携を深め、「活動家集団」の組織化を図るとともに、CO患者遺族を守る補償体制を確立せねばならない。

CO闘争は、労仂者が人間であるという証拠を資本につきつけるたたかいであり、いかなる弾圧をもって、資本が人間の生命を奪おうとも、われわれのたたかいは、ますます拡がり、資本の残ぎゃく性をバクロして行くだろうことを確信しよう。

あやつられる〝物価〟は国民に
大型合併の悪影響　犠牲

世はあげて大型合併時代。その功罪をめぐる論議も盛んです。そこで、合併のもたらす政治、経済への影響を探ってみました。

消費者は手をだなす

「八幡・富士両製鉄合併の目的は、ムダな競争をやめて利益を蓄積することにある。国際競争力を強めるためだ、などといったことはない。国際競争力は十分ある」「合併であがった利益を消費者に還元せよ、というのは賛成できない。まず企業がもらう。よそから手をだしてもダメ。値下げはあと回しだ」。八幡・富士合併の主役稲山八幡製鉄社長は五月七日、内外情勢調査会でこう演説しました（朝日五・十一）。

企業合併の大義名分「国際競争力をつける」などはとこ吹く風。「鉄鋼連盟の資料によっても、普通鋼材のコストは日本がトン当たり八五ドルに対し、アメリカは一三六ドル…すでに国際競争力という点では十分なのである」（エコノミスト五・二十八）。

「彼（稲山）の胸のうちにあるものはコスト低下よりも、価格の維持・安定による利潤の確保である」（エコノミスト）。本来、合併による大量生産で品物が安くできれば、消費者にとってプラスとなるはずですが…。集中合併の進んだこの数年、卸し売り物価は不況時にもほぼ横ばいを続けています。ひとつの業界が二、三の大会社に占有されたらどうなるか。公正取引委員会は合併後の会社の市場占有率が三〇％を越えたら、企業が市場を支配し、価格を思うままにあやつる危険があると指摘しています。八幡・富士合併による粗鋼の市場占有率は三五・七％余工業生産の土台となる鉄鋼価格は消費生活にも無縁ではありません

国の政治も意のままに

夏の味覚、ビール。メーカーによって値段はまちまちでよいはずなのに、どこも同じ価格。ビールは公定価格じゃないかと考えている人もあるほどです。ビール大手三社の市場占有率は実に九五％強昨年上半期、全産業平均の收益率が四・七一％なのに、ビール業界は九・七九％ももうけています。しかも「料亭など大口の消費者にはかなりのリベートがあるといわれる」（朝日五・九）とあっては一般消費者こそ、まさに独占の犠牲というべきもの。

「価格をあやつる心配があれば監視機構を設ければよい」（佐藤首相）といいますが、合併賛成の政府にどこまで規制の気持ちがあるのか。それどころか、宇佐美日銀総裁はさきごろ首相と会談、こんどの経済政策について「成長しつつ蓄積する」よう訴えたり（日経六・六）所得政策（賃金など所得の伸びを押える）を早急に具体化しようとしている（毎日三・十九）ことこそ注目すべきでしょう

独占と政治がより密接になったとき――日通汚職はその端的な証拠。政治腐敗をひとまずおくとしても、政府施策をつぐる重要な審議会の決定権を独占資本のリーダーが押さえていることも見逃せません。さきの所得政策を検討している経済審議会（会長、木川田一隆東京電力社長）、軍事予算拡充をとなえる財政制度審議会（会長小林アラビア石油社長）など。合併の影響は深刻です。【KNA】

× ×